

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ティンクルスター2		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層の中での関わりの充実	学校では中々取ることの出来ない異年齢の関わりを持つことが出来る。中学生から小学校高学年の子へ学校の様子を共有することで、見通しの立てやすさへと繋がる事や進路等での悩みを子ども同士で共有する環境が整っている。	継続して様々な年代の子との交流を指導員が促していき、本人が抱える不安感や悩みなどを友達同士で共有する経験や見通しを立てることでの不安感の軽減へと繋げられるように支援を行っていく。個々の居心地の良い場所、自分自身の居場所としてデイサービスを活用してもらえよう今後も環境を整えていく。
2	ソーシャルスキルトレーニングを中心とした、活動の充実	日替わりの活動内容に変化を持たせ、飽きずに楽しみながら子どもたちが参加出来るよう工夫している。活動内容を特性や発達段階に応じて難易度を調整し、無理なく取り組める環境を整えている。また、遊びのルールや子ども同士のぶつかり等を指導員が全て介入するのではなく、話し合いの場を設けて、自己解決することが出来る能力も高めている。	成長に応じ、保護者のニーズ、本人のニーズに合わせた活動を取り入れていき、幅広い活動の提供を継続して行っていく。
3	特性や苦手さと上手に付き合っていく方法を模索する手伝いをする	将来の自立に向けた支援を行っている。特性や苦手さを指導員が介入しながら、社会へ出た際にどのように対応、行動していけば良いかを模索していき、場面によっては負荷をかけていく等保護者様と連携を図りながら将来の自立へ繋がる支援を行っている。	デイサービスの卒業生の子たちが訪ねてくれることが増えている為、実際に卒業した子の話や体験等を伝えていく。当デイサービスを卒業した利用者が、放課後等デイサービスの職員になりたいと思いい、現在アルバイトとして経験を積んでいる。このような実例を増やしていき、利用者と社会を繋ぐ役割を担えるよう強化していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との連携に関する課題	日々の様子について保護者様にお伝えはしているが、時間が限られている中でのお伝えとなるので、支援中の出来事や指導員の対応の意図等について十分に共有しきれない部分がある為、保護者様との共通理解をさらに深めるために工夫を施していきたい。	連絡帳や送迎時のやり取りに加えて、保護者様の参観日や必要に応じて面談やフィードバックの機会を設け、保護者様との共通理解や信頼関係を深めながら支援の方向性を共有していく。
2	専門的支援を行うことが出来る職員の配置に関する課題	メンタル面でのケアや身体の使い方等のニーズが複雑化しており、保育士や児童指導員が管理者を頼る場面が多くなってしまっている現状がある為、福祉専門職や機能訓練担当職員を配置する等の必要性がある。	公認心理士や臨床心理士等の配置により、メンタルケアや行動障害へのサポートを強化したり、作業療法士や言語聴覚士による訓練、療育を取り入れることで専門的なサポート力をあげていく。
3			